

分野	質問・意見	回答
農業	<p>【岸本副会長】 ○地域計画の話合いなど、誰が農業をするかを話し合うことで、その地域も活性化するのではないかと。 ○松江市は日本の縮図だと思う。 ■集落営農については、作業の効率化や担い手の確保の観点から、組織の再編や営農組織の連携、ほ場の改良など、行政としての支援対策を強化すべきである。 ■特に中山間地においては、耕作放棄地は、水利不備、獣害発生また、狭小、不整形、軟弱等ほ場条件の悪い中で、山林に隣接する農地は、必ずしも解消を目指すのではなく、山に還すことも選択肢としてもよいのではないかと。 ■技術の向上や環境にやさしい農業の取り組みも理解はできるが、その前にだれが担うのかの具体的な方策の提示が必要である。(法人間連携、集落組織の改編、合併等々) ■既耕地においても、現在高収益作物栽培が推進されているが、市内の揖屋干拓地は、既にキャベツなど土地利用型の大規模高収益作物栽培が既に展開されている。松江市として、既耕地は、稲作経営、施設栽培による近郊野菜生産、畜産をメインとした農業生産振興策を固めた方がよいのでは。</p>	<p>【事務局】 ■集落営農組織の再編や組織間の連携、圃場整備については、各組織や地域の状況に応じて、市・県が一体となって対応していきたい。➡P.9(新たな担い手の育成・確保) ■林地化も選択肢の一つだと考える。地域計画の策定に向けた地域の話合いの意見を踏まえながら、対応していきたい。➡P.22(優良農地の整備と活用) ■担い手の具体的な確保方法については、市内一律ではなく、新規就農、法人や集落営農組織の法人化・連携・再編など地域の担い手の状況に応じた方向性を地域での話合いの中で決めていくことが重要だと考えるので、地域計画の話合いや農業委員会の地区別会議などで検討を進めていきたい。➡P.9(新たな担い手の育成・確保)及びP.22(優良農地の整備と活用) ■水田で米から高収益作物への転換することの難しさは市も認識している。干拓地は生産性のよい貴重な畑地であり、露地野菜生産の中心として引き続き生産振興を図ってまいりたい。しかしながら、近年の米の消費減少と価格低迷から、水田が農地の7割りを占める本市においても、儲かる農業を推進していくためには、圃場整備や耕作条件改善事業、畑地化により排水性を高めながら、米以外の作物への転換は必要と考えている。➡P.22(優良農地の整備と活用)</p>
	<p>【渡部委員】 ○水田から畑にすることは非常に大変。野菜を作り、収益に見合うか非常に疑問。 ○県の方針を取り入れていると思うが、品目を絞る手法が松江市に合うか非常に疑問。現場に合う品目選定を進めていく方がよいのでは。</p>	<p>【事務局】 ○水田を畑に変えて水田園芸を推進していくことの難しさは市も認識している。解消するためには、排水性が一番という認識を持っているので、耕作条件改善事業など導入しながら対応したい。➡P.22(優良農地の整備と活用) ○県の事業が推進6品目中心に支援されているので、県の支援をうまく活用したい。松江地域も広いので、地域の現状を見ながら対応したい。品目選定はJAと連携してやっていく。➡P.12(生産振興(農業))</p>
	<p>【吉岡委員】 ○就農のハードルが高いと感じる。簡単なレベルから農業をやっていいと言えば、足を踏み入れやすいのではないかと。</p>	<p>【事務局】 ○今の若者は構えた格好でやることを非常に嫌い、がっつり最初からやれって言うと本当に嫌がるので、自分のペースでできるようなやり方は良いと思う。➡P.9(新たな担い手の育成・確保)</p>
	<p>【安部委員】 ○お米にかえて野菜類の売り上げを伸ばすことは、ハウスなどの手立てがないと非常に厳しいのではないかと。</p>	<p>【事務局】 ○ハウスの補助制度があり、毎年数件申請あり。露地野菜は、田んぼの圃場整備で排水条件が良くなるので、米から玉ねぎなどへ変えている地区もある。露地野菜、ハウス野菜の両方で増やしていきたい。➡P.12(生産振興(農業))</p>

分野	質問・意見	回答
林業・鳥獣	<p>【古曳委員】 基本理念④、⑤ について ■農山漁村の維持・活性化のためには、第1に所得と雇用機会の確保が重要。そのためには農山漁村の持つ価値を明らかにし、発信していく視点での施策が必要と考える。例えば、森林は、国土保全や水源かん養、地球温暖化防止、木材生産などの多面的機能を有している。近年では「2050カーボンニュートラルの実現」「SDGs」「脱炭素化」など、社会資本としての森林の重要性がクローズアップされ、森林資源の適正管理とこれを後押しする林業の重要性が再認識されている。この価値を高める(森林整備を進める)ことは、森林の持つ機能の向上と地域に居住し現場で作業する者の所得向上に繋がり、農山漁村の維持・活性化に資するものとなる。 ■都市から地方へ移住して農林漁業に関わりたい若年層が増加しており農山漁村と継続的な関わりをもつ交流人口の拡大対策が望まれる。例えば、集落維持を下支えする農林地の管理や利用等の協働活動の促進も考えられる。</p>	<p>■ご指摘のとおり、農山漁村の持つ価値を明らかにし、発信していく視点での施策が必要だと考える。ご指摘の森林についても農地と同様に多面的機能を有しており、森林環境贈与税を活用し、「森林整備の促進、人材育成・担い手確保、木材利用の促進や普及啓発活動」を通じて、森林のもつ公益的機能の保全を図ってまいります。 →P.18(環境に配慮した農林水産業の推進(循環型林業))</p> <p>■農林水産業体験や食育学習等を通じて、都市部と農山漁村地域との関係人口を拡大していきます。 →P.24(地域を支える人材づくり)</p>
	<p>【森脇委員】 ○鳥獣の処分に関してどのように考えているか？ ■現在の鳥獣被害対策は、主に集落営農を行っている人(営農を行っている人)に対する支援が主です。しかし、美保関・鳥根町などの被害は、野生鳥獣との交通事故・生きがいとしての家庭菜園の鳥獣被害などで、被害額として計上しにくい部分です。地域コミュニティの維持を行うためには今後切っても切り離せない課題になると思います。この場合、基本施策⑨・⑩南方に該当すると思うのですが、どのように分けられるのでしょうか。</p>	<p>【事務局】 ○処分はほとんどが埋設。自家消費ということで少し使われている。埋設も大変だと聞いているが、松江市としての対策は持っていない。 ○解体処理施設は、本当に解体をきちんとやって、ロットを処理することが可能であれば、施設整備の拡充の支援については準備がある。→P.28(鳥獣被害対策等の推進) ■ご指摘のとおり鳥獣被害は、生業としての農業被害にとどまらず、生活環境への影響も危惧されると認識しております。ご指摘の基本施策については、共通していることから、一つにまとめ「9 農山漁村の暮らしを支える環境づくり」と整理した。 →P.28(鳥獣被害対策等の推進)</p>
漁業	<p>【小笹委員】 ○漁業者の担い手の確保が急務。自分のところで7年間で9人の新規漁業者が生まれ、平均約2.5倍水揚げ実績を伸ばせている。 ○定置網の従業員はすごく高齢化がすごく進み存続が難しいため、現場の漁業者の中でのアドバイザーが必要だと思う。</p>	<p>【事務局】 →P.11(新たな担い手の育成・確保(漁業))</p>
	<p>【桑原委員】 ○シジミの課題は、だんだん食べる人が少なくなってきている点。支援を引き続きお願いしたい。 ○刺し網の作り手がない。 ○フナを食べる人が少なくなってきている。 ○ウナギの放流事業の助成を引き続きお願いしたい。</p>	<p>【事務局】 ○消費は、出口戦略が一番のポイント。ただ商売するという事は役所が一番苦手。 ○松江市のマーケットだけでは限界だが、足元からやっていかないと、全国には広がらないので、地域の方々地域にあるブランドを、自信を持って、県外、世界へ売っていく、発信していくことが大切。JA、宍道湖漁協、JF、商工会議所、森林組合などと一緒になって、パイヤーと繋がってマーケットをいかに探して魅力のある商品にしていっていかなくてはならない。 →P.13(生産振興(水産物))及びP.20(農水商工連携による特産品開発)</p>
	<p>【安部委員】 ○サルボウガイの養殖に関して、気象条件や環境変化への対応についての検討はいかがか？ ○サルボウガイは、地元民だけではなく都会に行かれた方も非常に興味・関心を持っている。今後も支援が必要だと思う。</p>	<p>【事務局】 ○3年度は、豪雨とそれに伴った水質の貧酸素の影響でサルボウガイが変死した。貧酸素の状況等をきめ細かく漁協へ情報提供し、この状況により、吊るしている貝を、上下に移動させるといった指導をしながら変死を少なくしていく。 →P.13(生産振興(水産物))</p>
農水商工連携	<p>【小笹委員】 ○生産しながら商品開発することは大変な作業で、補助のやり方やサポートのあり方が今後課題だと思う。</p>	<p>【事務局】 →P.20(農水商工連携による特産品開発)</p>
	<p>【河野委員】 ○松江にどんな野菜があるのか、水産物があるのかなどのメディア戦略について、ブランド化推進のところで記載した方がよい。 ○農水商工連携の特産品の補助金が10万円と少ないので精査が必要。 ○次期計画で、観光の視点も入れるとよい。</p>	<p>【事務局】 ○メディア戦略についてブランド化推進のところで次期計画には記載したい。 ○補助金は10/10→2/3にして、多くの方が利用できるように変更した。様子を見ながら、補助の仕組みについて変えていきたい。ただし、補助金は未来永劫ではなくスタートアップのための支援である。 →P.21(地産地消の推進と観光と連携した特産品の推進)及びP.25(地域資源の発掘・磨き上げ)</p>
	<p>【森脇委員】 ○農水商工連携事業について、ヒット商品とその理由は？</p>	<p>【事務局】 ○生産物が一定量確保できやすいものが比較的ずっと販売されている。ヒット商品の特徵として、販売する事業者が多面でその商品をPRするということを継続して行っている。新商品の開発の相談があれば、フォローアップしながら継続的に商品売り続けるというような仕組みも考えたい。→P.20(農水商工連携による特産品開発)</p>
	<p>【松尾委員】 ○松江市と共同で、もっと事業者の皆さん同士の交流と、それから県内外のパイヤーさんなどと繋いで、商品開発、それから新しいものだけじゃなくて、伝統的な食材など古くからのものも伝え続けていけるようなお手伝いができたらと思う。</p>	<p>【事務局】 →P.20(農水商工連携による特産品開発)及びP.25(地域資源の発掘・磨き上げ)</p>

分野	質問・意見	回答
その他	<p>【小笹委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一次産業者の集まりを自分たち独自で作る、横の繋がりが全くない、交流自体がすごく薄いという意見が出ている。 ○担い手の確保について、金銭面だけではなく、しっかり語れる現場のスタッフが市もプレイヤーにもいないと今後は厳しいと思う。 ○一次産業者の日常や生活自体が、非日常で、一般の方が味わえないものという意見をよくもらう。観光体験も資源になるのでは。観光会社に入ったりしてもらい、生産の現場を見せることで消費者に伝え、消費を促せるのでは。また、地域を持続化・活性化できるのでは。 ○様々な産業が手を取り合ってやっていく必要があると思う。それに対してフォローがあるとありがたい。 ○最初からハードルの高いイメージの産業体験するのではなく、ハードルの低い収穫体験に行く等から始めることで、松江市に住んでみたいに繋がるのでは。 ○仕事をしに松江市に行くのではなく、松江市に住みたいから松江市に来るができれば、松江にいっぱい仕事があつて、選択ができれば。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一次産業者の皆様を集まりを作ろうとしているが実現できてない。次期計画に記載し、実現できるように検討して参りたい。 ○各業界の集まりにより、各業界同士の横の連携、業界の中での連携が生まれるので、集まりは大事。キーパーソンも含め、全体をつなげられるパートナーを探している。 ○まずは手始めに皆さんが気軽に集まれるような場作りを検討している。 →P.12(生産振興(農産物))、P.13(生産振興(水産物))及びP.20(農水商工連携による特産品開発) ○体験型のもは非常に重要なものだと思う。具体的に考えて、計画の体系図にも載せることも大事だと思う。 ○松江式ワーケーションの中に一次産業体験をメニューに加えて、口コミで広げることで、就業につながるかも。 →P.24(地域を支える人材づくり)及びP.25(地域資源の発掘・磨き上げ)
	<p>【岸本副会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■一次産業の担い手の確保が厳しい中、集落機能維持のために、育成確保にどう取り組むのか、具体的施策をもっと強く出す必要があるのではないか。 ■観光とタイアップした視点をもっと強化すべきであり、松江市の特産品や地場農林水産物の大型物販施設の整備などにより、多品目少量生産する小規模経営の所得向上による、農山漁村の活性化を図ることも重要である。 ■国等の施策展開も踏まえる必要があるが、次代の担い手をどう確保していくか、具体的な施策展開が必要である。 ■新たな松江市の総合計画やそれに伴う、松江市の新たな土地利用制度の在り方の検討が開始されている。それを踏まえて、それぞれの地域の特性を活かした農山漁村の活性化を図ることも必要である。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■担い手の具体的な確保方法については、市内一律ではなく、新規就農、法人や集落営農組織の法人化・連携・再編など地域の担い手の状況に応じた方向性を地域での話し合いの中で決めていくことが重要だと考えるので、地域計画の話し合いや農業委員会の地区別会議などで検討を進めていきたい。 →P.9(新たな担い手の育成・確保(農業))及びP.22(優良農地の整備と活用) ■観光客にとって地物への関心は高いことから、観光資源の活用や関係人口をターゲットにした商品開発など付加価値を高める取組として検討してまいりたい。 →P.20(農水商工連携による特産品開発)及びP.21(地産地消の推進と観光と連携した特産品の推進) ■新規就農については、相談からフォローアップまで関係機関が連携して一体的に支援をしているが、SNSやメディアを活用し、入口である相談件数を増加させるような取組を進め、多様な担い手の育成・確保に繋げてまいりたい。 →P.9(新たな担い手の育成・確保(農業)) ■ご指摘のとおり、新たな土地利用制度の在り方の検討が開始されており、それぞれの地域の特性を活かした農山漁村の活性化を図ることは必要だと考える。→P.22(優良農地の整備と活用)
	<p>【桑原委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○みどりの食料システムなどで掲げられている、2030年までの目標について検討が必要。 ○30by30の取組を見ると、全国各地で農漁村が、自然保護地域となっているので、自然と共生したうえで、農林漁業が発展することが望ましい。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> →P.17～19 環境に配慮した農林水産業の推進(環境保全型農業、循環型林業、栽培漁業)
	<p>【新宮委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■基本計画の体系(案)について、基本方針・基本施策については(案)のとおりでよろしいと思います。 ■<その他意見>多様な担い手の育成・確保について、基本施策として持続可能な経営体の育成となっています。世界情勢により資材・肥料・飼料等、価格の高騰は今後も起こりうる中で、農畜産物において価格転嫁が出来ていない現状となっている昨今、持続可能となり得る明るい未来が想像できる主要施策となるよう検討してまいりましょう。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> →P.7～8 本市が目指す農林水産業の展開(基本理念と基本方針)
	<p>【森脇委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■委員会の場でも出た意見ですが、「伝統」「教育」など、次世代に伝え残す動きは必要であると考えます。以前は基本方針4の部分にまとめられたのかもしれませんが、この分野に関してはパワーダウンしたように感じました。教育委員会や子育て課などの関係機関と連携できるところは、松江の子ども達へ伝える動きは必要だと感じます。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■現在、次世代に伝え残す動きの一つとして、松江市都市農山漁村交流連携促進事業費補助金により、伝統的な食文化体験などの活動への支援を行っております。引き続き、補助金による活動への支援を行ってまいりたい。また、ご指摘のとおり、関係課との連携の必要性も感じており、伝統の継承だけでなく、地域資源の再発見や魅力を高める方法も含めて検討していきたい。→P.24(地域を支える人材づくり)及びP.25(地域資源の発掘・磨き上げ)
	<p>【保永会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若い人がクリエイティブな仕事に取り組むことがないと、都市としての存続もおそらくないと思うので、集まる場があると良いと思う。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> →P.12(生産振興(農産物))、P.13(生産振興(水産物))及びP.20(農水商工連携による特産品開発)
	<p>【松尾委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光分野の体験型を、次の基本計画に盛り込むべきだろうと思う。 ○松江に古くからある伝統的な食材や料理も伝えていくような部分も、次の計画に盛り込んでいけたら良いと思う。 	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> →P.24(地域を支える人材づくり)及びP.25(地域資源の発掘・磨き上げ)